M1BS

ALL TUBE CIRCUIT PREAMP BOOSTER

取扱説明書

この度は、ALBIT PREAMP BOOSTER M1BSをお買上頂き、誠にありがとうございます。
この製品を末永く正しくご愛用頂く為にも、取扱説明書をよくお読み下さい。

製品特長

●モディファイによるドライブサウンドの王道へ、改造せずに想像を超えた更なる頂点へ、オールチューブプリアンプブースター、M1BSが導きます。

●圧倒的な存在感と激しさもメロディアスな部分もある、モディファイしたドライブサウンドを長年にわたる数多くの経験から、モディファイせずにアンプのエフェクトループに接続するだけで、究極のビンテージトーンを醸し出す、ALBIT独自のプリアンプブースターが忘れ得ぬ瞬間を作り出します。

●エフェクトループのないアンプでも、OUTPUT LEVELスイッチをLOW側にする事で、通常のブースターとしてもお使い頂けます（エフェクトループに接続した場合と、多少音質に違いが生じます）。

●基本的な音作りは、ビンテージサウンドのブーミーな音ではなく、品のある高域と張りがある良くヌケるサウンドを目指し開発しました。

●M1BS本体のフットスイッチや、外付けのフットスイッチ（別売）または、MIDI機器等のスイッチングシステムによって、A/B２つのマスターボリュームの切り替えや（出音に音量や音質の差をつけられます）、M1BS本体のオールバイパス（トゥルーバイパス方式）のコントロールが可能です。

●DYNAMIC FILTERスイッチの切り替えで、エッジのたったハードロックなサウンドや、中域を強調したブルースなサウンドを、更にスイッチをOFFにする事で、オーソドックスなビンテージサウンドへと音質が変化します。

●MID.BOOSTスイッチをONにする事で、太く輪郭があり、よくヌケるサウンドへ変化します。

●GAINコントロールでクランチなドライブサウンドから強烈なディストーションまで変化します（アンプ側のボリューム類と併用して下さい）。

使用上のご注意　※別紙のご注意も必ずよくお読み下さい。

●スイッチングシステムを使用する場合は、オープン/クローズの信号が出るものを使用して下さい。本製品はクローズの状態で回路が作動します。※電圧によるHIGH/LOWのスイッチングシステムは使用できません。

●本体に強い衝撃を与えた場合、搭載している真空管が破損する恐れがあります。お取扱いにご注意下さい。

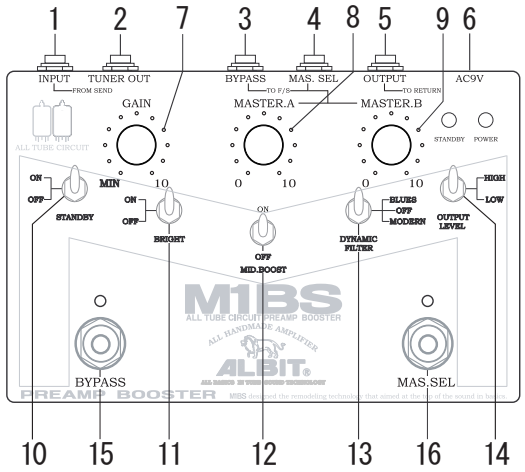
●STANDBYスイッチをOFFにした際に、アンプ側のLOOP回路により多少音が漏れる場合があります。

●接続したギターアンプが飽和し、M1BSの各MASTERを上げても音量が上がらない場合は、M1BSのスイッチ類の変化が感じにくくなります。

●付属専用ACアダプターは、M1BS内部の真空管を高電圧で駆動させる為の専用アダプターで、一般のDC９Vのアダプター（電池の代用）とは違い、出力が交流AC９Vの特殊アダプターです。他機器に接続すると、機器及びACアダプターが破損致しますので、必ずお止め下さい。アダプター本体に記載がある製品のみ使用可能です。

●パワーアンプ部がDクラス（スイッチング電源によるデジタルアンプ）のアンプへは、接続しないで下さい。

各部名称と働き



１．INPUT
ギターアンプ側エフェクトループのSENDへ接続して下さい。

２．TUNER OUT
チューナーを接続する端子です。
チューニングをする際、STANDBYスイッチをOFFにすると本体右上のSTANDBY LED（赤）が消え、出音がミュートされます。
※TUNER OUT端子は、STANDBYのON/OFFに関わらず、常時音は出力されます。

３．BYPASS
BYPASS用の外部コントロール端子です。
ラッチ型のフットスイッチまたは、スイッチングシステムのコントロール信号で、BYPASS回路が作動します。

４．MAS.SEL
MAS.SEL用の外部コントロール端子です。
ラッチ型のフットスイッチまたは、スイッチングシステムのコントロール信号で、MASTER.A、MASTER.BのA/B切り替えが可能です。

５．OUTPUT
ギターアンプ側エフェクトループのRETURNに接続して下さい。

６．AC9V
付属専用ACアダプターを接続する端子です。

７．GAIN
全体のゲインを調整するツマミです。MINの位置で全体の音質が(あらかじめM1BSのMASTER及び、ギターアンプ側RETURN VOLは４～５以下で、また、RETURN VOLがなくLEVELスイッチがある場合は、０dB～＋４dBの位置にして下さい）クランチまたは、軽く歪んだドライブサウンドになるように、ギターアンプ側のSENDボリュームまたは、LEVELスイッチを調整して下さい（コントロールのないアンプの場合ギターアンプ本体の各ボリュームを調整して下さい）。

８．MASTER.A
MAS.SEL上のLED（赤）が点灯時に作動します。

９．MASTER.B
MAS.SEL上のLED（赤）が消灯時に作動します。

10．STANDBY
ON時にSTANDBY LED（本体右上、赤色）が点灯し音が出ます。

11．BRIGHT
MASTER.A、MASTER.B、両方に作動し、ONにすると高音域を強調するスイッチです。
MASTER VOLを上げる程、効果は弱くなります。
※強い効果を得たい場合は、アンプ側のボリュームを上げ、M1BS側のMASTERを下げて下さい。

12．MID.BOOST
中音域を強調するスイッチです。ONにすると張りのある明るいサウンドに変化します。

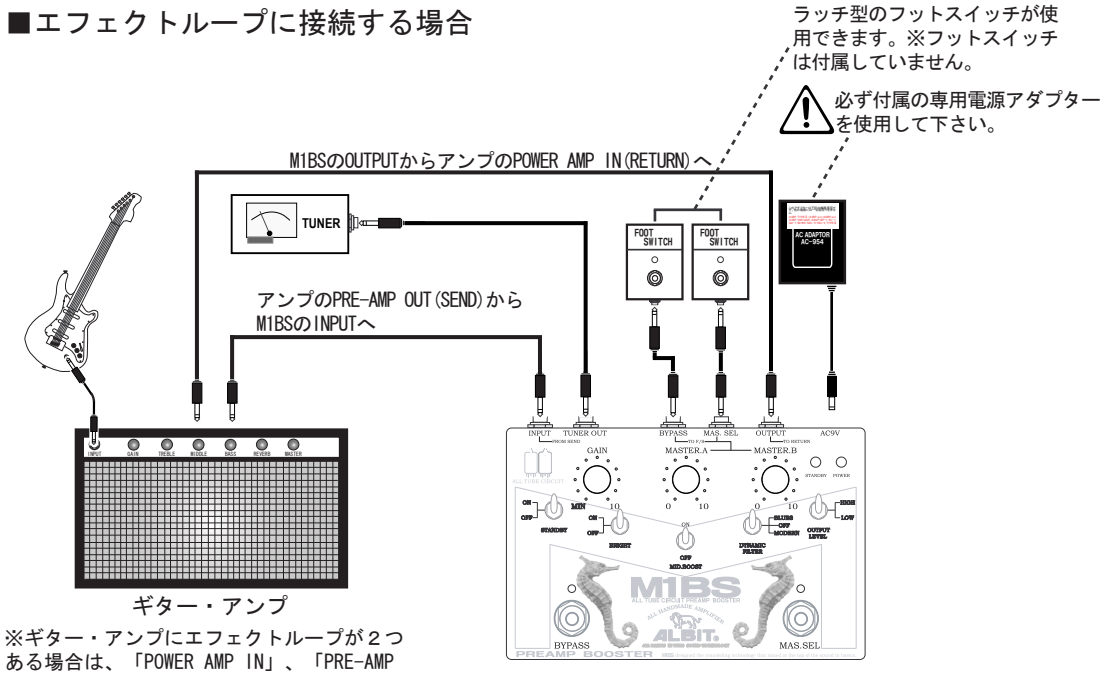
13．DYNAMIC FILTER
全体のサウンドを変化させるスイッチです。BLUESまたは、MODERN風に変化します。
OFF時にビンテージサウンドになり、MID.BOOSTと併用する事で、ビンテージサウンドの王道を再現します。

14．OUTPUT LEVEL
出力レベルの切り替えスイッチです。
通常はHIGH（上側）にセットします。全体の音量が大きすぎてMASTER.A、MASTER.Bのコントロールが調整しにくい場合は、このスイッチをLOW側に切り替えて全体の音量を再調整して下さい。
※通常のブースターとして使用する場合は、必ずLOW側（下側）に設定して下さい。

15．BYPASS
ON時にスイッチ上のLED（赤）が点灯し、バイパス回路が作動し、M1BS全体がバイパスされます。

接続方法

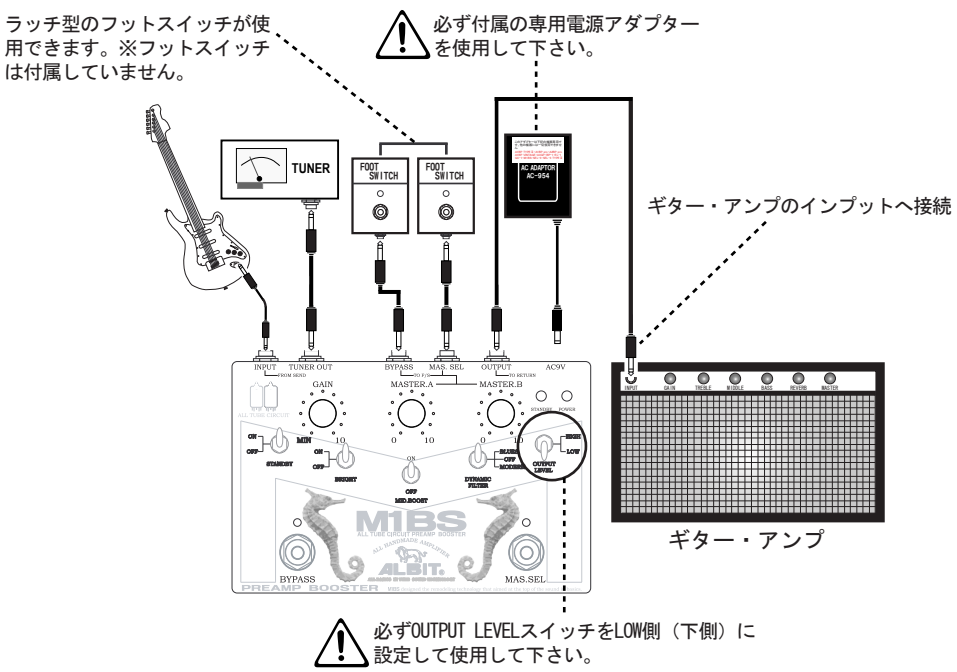
■エフェクトループに接続する場合



ギター・アンプ

※ギター・アンプにエフェクトループが２つある場合は、「POWER AMP IN」、「PRE-AMP OUT」と表記がある方へ接続して下さい。

■ブースターとして使用する場合



ギター・アンプ

製品仕様

電源：AC9Ｖ（付属専用アダプター）

真空管：12AX7×2（選別品）

コントロール：GAIN・MASTER.A・MASTER.B

スイッチ：STANDBY・BRIGHT・MID.BOOST・DYNAMIC FILTER・OUTPUT LEVEL・BYPASS・MAS.SEL

インジケーター：POWER(青)・STANDBY(赤)・BYPASS(3Φ赤)・MAS.SEL(3Φ赤)

入力インピーダンス：470KΩ

出力インピーダンス：100KΩ

標準出力電圧：＋4 dbm

外形寸法：150mm(W)×106mm(D)×61mm(H)

重量：593ｇ（本体のみ）

付属品：AC/AC専用アダプター×1・取扱説明書・保証書

※規格及び、外観は改良の為、予告なく変更する可能性があります。

お問い合わせ先

■ALBIT・Cranetortoise製品全般のお問い合わせ先
■ALBIT・Cranetortoise製品全般の修理に関するお問い合わせ先

TEL:048−928−1637　FAX:048−922−5742

お電話の受付時間:9:30～12:00、13:00～18:30
（※第４土曜、日曜祝日、弊社指定休業日は除く）

■ALBIT・Cranetortoise製品全般の修理送り先

〒340−0035
埼玉県草加市西町1382−3　アルビットコーポレーション

■メールのお問い合わせ先
albit@river.sannet.ne.jp

■最新情報はホームページにて
http://www.albit.jp

Cranetortoise ALBIT®
SINCE 1980 ALL BASICS IN TECHNOLOGY OF SOUND

使用上及びセッティングのご注意

※実際に使用する前に必ずよくお読み下さい

①アンプにM1BSを接続せずにスピーカーを接続し、音が正常に出る事を必ず確認して下さい。スピーカーの接続に不備がある場合や、スピーカーを接続せずに（スピーカー回路が無負荷状態で）音を出す（演奏する）と、アンプが故障する可能性があります（特に真空管を使用しているアンプ）。

②M1BSは、全段真空管回路を採用している為、本体にACアダプターを接続し、電源ランプ（本体右上、青色）が点灯してか　ら、30秒～１分以上経過後に（この間に内部から小さくノイズの様な音が出ますが、異常ではありません）音を出して下さい。電源ランプが点灯直後は音は出ません。

③音量を絞ってからACアダプター接続し、電源を入れて下さい。尚、STANDBYスイッチをOFFにし、MASTER.A、MASTER.Bを「０」にしてから、セットアップして下さい。

④セットアップ次第で大音量になる場合があります。その際はスピーカーの破損や、人体（特に耳）へ負担が掛かる恐れがありますので、十分、大音量にはご注意して下さい。

⑤接続するアンプによって、エフェクトループをパラレルまたはシリーズに設定するスイッチがある場合は、必ずシリーズ側に設定して下さい。または、コントロールにエフェクトループのミックスボリュームがある場合、生音（ドライ音）は、完全にゼロにして、１００％エフェクトループ側に設定して下さい。更に接続レベルスイッチがある場合、－１０dBまたは、－２０dB側ではなく、０dBまたは、＋４d側に設定して下さい。

⑥M1BSをエフェクトループに接続するシールド・ケーブルは、長くなる程音質劣化や他トラブルを発生しやすくなる為、短めのケーブルで接続し、切り替えはスイッチングシステムや、フットスイッチ（多少、長めのケーブルでも問題はありません）にて行って下さい。

⑦上記の方法でM1BSを接続しセットアップすると、ハイゲインアンプが構成され、セットアップの仕方によっては、以前にはなかった下記の様な現象が発生する事があります。

■現象及び、現象の対処方法について

・M1BS及び、アンプのボリュームやゲイン等を上げる事によって、以前より「ザー」というノイズが多く発生してきますが、このノイズは、ハイゲイン構成によって全体の増幅度が増えた為、発生するノイズで、ゲインが上がるのに比例して、ノイズも多くなりますが、異常ではありません。

・この「ザー」というノイズの他に、ハウリングに似たノイズや、不快な異音が同時に多く発生し楽器本体のボリュームを絞っても、これらのノイズや異音等が消えない場合は、（この状態で「ザー」というノイズは消えません）、アンプ及びM1BSのボリュームやゲインを上げすぎによる発振が考えられます（一般のハイゲインアンプと同様です）。
このまま使用せずに、M1BS及び、アンプのボリュームやゲインを下げて、これらのノイズや異音等が消えた各ボリュームやゲインの値が現状での接続したアンプとの音量の最大値になります。
アンプが故障する可能性がありますので、この値以上には上げないで下さい。

・演奏中にM1BSのMAS.SELスイッチで、MASTER.A、MASTER.Bを切り替えた際に、ノイズが出る場合があります。本来この切り替えノイズは、ほとんど目立ちませんが、切り替える度に、「ブツッ」とノイズが目立つ場合は、上記同様発振が考えられます。
この場合、M1BS側ではなく、アンプ側のボリュームやゲイン等を「ブツッ」というノイズが目立たなくなる値まで下げて下さい。

⑧M1BSをギターアンプのインプットに接続し、一般のブースターと同じ接続方法で使用する場合は、電源ランプ（本体右上、青色）の下にある、OUTPUT LEVELスイッチを必ずLOW側（下側）にセットして下さい。